授業科目名・形態	ソーシャルワークの基盤と専門職　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	松本　和剛	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	W3-1016sp(c)R				

【授業の主題】

ソーシャルワーク専門職の法的位置づけ、ソーシャルワークの概念・構成要素、原理・理念、歴史的形成過程、価値・倫理、倫理的ジレンマ、専門職の概念と範囲を学び、専門職として必要な基礎知識と考え方を修得する。

【到達目標】

1. 社会福祉士・精神保健福祉士の資格制度、法的位置づけ、地域共生社会における役割を説明できる。
2. ソーシャルワークの定義、構成要素、原理・理念を説明できる。
3. ソーシャルワークの歴史的形成過程と日本での展開を説明できる。
4. 専門職の価値・倫理、倫理綱領の意義と活用、倫理的ジレンマと判断過程を説明できる。
5. 専門職の成立条件、職能団体、社会福祉士の職域と役割を説明できる。

【授業計画・内容】

第 1 回　ソーシャルワーク専門職の国家資格と社会福祉士
第 2 回　精神保健福祉士とソーシャルワーク専門職の専門性
第 3 回　ソーシャルワーク専門職に求められるコンピテンシー
第 4 回　ソーシャルワークの定義
第 5 回　ソーシャルワークの構成要素
第 6 回　ソーシャルワークの原理
第 7 回　ソーシャルワークの理念
第 8 回　ソーシャルワークの形成過程①―前史と基礎確立期
第 9 回　ソーシャルワークの形成過程②―発展・展開と統合化
第 10 回　日本におけるソーシャルワークの形成過程
第 11 回　ソーシャルワーク専門職の価値・倫理と倫理綱領
第 12 回　倫理的ジレンマと倫理的判断
第 13 回　専門職の概念・範囲と社会福祉士の職域
第 14 回　多様な組織・機関の専門職と諸外国の動向
第 15 回　まとめ

【授業実施方法】

教科書を中心に講義し、ソーシャルワークの概念、原理・理念、歴史、価値・倫理、専門職の役割を学ぶ。必要に応じて事例検討やグループワークを取り入れ、実践場面と関連づけながら理解を深める。また、社会福祉士国家試験を意識し、重要な概念や専門用語について確認する。

【事前・事後学習】

事前に該当範囲を読み、重要用語や疑問点を整理する。授業後は教科書・配布資料で復習し、重要概念とその意味を整理するとともに、実践との関連について考える。

【主な関連する科目】

「社会福祉概論Ⅰ」「社会福祉概論Ⅱ」「コミュニケーション技術Ⅰ」「社会学」「哲学」

【教科書等】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門)』中央法規、2022 年

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

授業態度・参加意欲等 10%、リアクションペーパー20%、レポート 20%、定期試験 50%の総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

社会福祉士として障害福祉分野の相談支援、就労支援、生活支援等に携わった実務経験を活かし、専門職の役割や価値・倫理を実際の支援場面と結びつけて解説する。具体的な事例を通して、専門職としての判断のあり方についても考える。

【学生へのメッセージ】

ソーシャルワークの基本的な考え方と専門職としての価値・倫理を学ぶ科目です。国家試験や将来の実践を意識し、基礎知識を着実に身につけましょう。用語の暗記にとどまらず、実践とのつながりを考えながら学んでください。